

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	教育学部
大項目	0 理念・目的
中項目	
小項目	0.0.1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。
要素	理念・目的の明確化 実績や資源からみた理念・目的の適切性 個性化への対応
小項目	0.0.2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか。
要素	構成員に対する周知方法と有効性 社会への公表方法
小項目	0.0.3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 自己点検・評価(2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。

進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 教育学部設置認可申請において示した教育学部の理念・目的の学生及び教職員への周知を徹底する。	→「学部入学式、チャペル、各種実習のガイダンス、就職セミナーなどにおける学部の理念・目的の周知徹底の頻度」	B	B			
2. 学部の理念・目的について、その周知方法の適切性を評価分析する。	→「学部長室委員会及び学部広報委員を中心にして、周知方法の改善策の検討頻度と進捗状況」	C	C			
3. 学部完成年度以降の将来ビジョン策定において、学部の理念・目的の再検討を行い、新たな設定を行う。	→「学部の将来ビジョン委員会における2013年度以降の学部再編計画および理念・目的の検討状況」	A	A			
			☆			
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目0.0.1	0.0.1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。
	(理念・目的の設定の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→ <input checked="" type="radio"/> 理念・目的を設定している <input type="radio"/> 理念・目的を設定していない
	(理念・目的) (教育学部の理念・目的) 教育学部は、関西学院大学の理念であるキリスト教主義による人格陶冶を踏まえ、その教育のキーコンセプトとして「実践力」、「教育力」、「人間力」を据える。「実践力」とは、幅広い教育現場で、強い情熱、子どもへの愛情、優れた指導力を持って、実践にあたることのできる資質である。「教育力」とは、高い使命感と確かな知識と力量を持って、子どもへの教育と支援ができる資質である。「人間力」とは、総合的な判断力と視野の広さ、思慮深さ、豊かな人間性と人権意識、さらに豊かなコミュニケーション能力を持ち、それを実践に役立たせることのできる資質である。こうした3つの「力」を持ち、「子ども理解」を基礎に現代の複雑で困難な教育問題に向き合うことのできる「教育者」を育てることを教育学部の教育研究の目的とする。
	(幼児・初等教育学科の理念・目的) 幼児・初等教育学科においては、「子ども理解」を基本理念として、知的な教授・学習にとどまらず、心の側面を含めた全人的人間理解を持って教育を行うことを目指し、「実践力」、「教育力」、「人間力」を兼ね備えた優れた幼稚園教員、小学校教員、保育士を養成することによって、教育者養成のニーズと地域社会の要請に応え、質の高い教育実践に貢献することを目的とする。 (臨床教育学科の理念・目的) 臨床教育学科では、学校現場での様々な問題や困難に対応するため、「子ども理解」の基礎となる教育学(教育人間学、教育方法学、教育社会学)の知識と方法に教育相談と特別支援教育の知識と技術を加えて、子ども、保護者、教師の支援の在り方の研究開発とその実践を行う。このことによって、教育上の諸課題に対する支援と問題解決を目指す教員ならびに実践家を養成し、教育者養成のニーズと地域社会の要請に応え、質の高い教育実践に貢献することを目的とする。
★	(説明) 学部設置時の設定した学部および学科の理念であり、適切に設定されている。
小項目0.0.2	0.0.2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員(教職員および学生)に周知され、社会に公表されているか。
	(周知・公表の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→ <input checked="" type="radio"/> 周知・公表している <input type="radio"/> 周知・公表していない (説明) 学部入学式、チャペル、各種実習のガイダンス、未来塾(教師塾)などで学部の理念・目的の周知徹底を行っている。また、学部リーフレットを作成し、学生が実習に行く際に持参するなどして、学生に学部の理念を周知した。総合コース「『関学』学」において学部長が教育学部の開設にいたる歴史や学部の特色について話した。113名の受講生が定期試験で「教育学部」を選んで解答を記述した。
小項目0.0.3	0.0.3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。
	(検証の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→ <input checked="" type="radio"/> 検証している <input type="radio"/> 検証していない (説明) 2010年度には、現在の学部・学科の理念を基礎に、学部の将来ビジョン委員会および学長のもとに設置された教育学部再編構想検討部会(6回開催)において2013年度の学部再編時の学部・学科の理念・目的を定め、2011年2月7日、再編構想検討部会答申を学長に提出した。また、学部教授会でも将来ビジョンの検討という形で理念・目的について議論を進めた。
その他	

《評価指標データ》

本学の育成した人材(卒業生)に対する社会(企業)の評価

卒業生がどの程度スクールモットー(マスタリー・フォア・サービス)をどの意識しているか【基本的な基礎データ】

卒業生のうち、自分の子供等、身内に関学への進学を勧めたいと思う人の比率【基本的な基礎データ】

卒業生のうち、自分の子供等、身内に関学への進学を勧めたいと思う人で、「スクールモットーに共感できる」ことをその理由とする人の比率

在学生のうち「この大学で人生の一時期を過ごすことが、将来にとって役立つと思う」人の比率

理念の周知について(1)ー理念・教育目標を宣布する発行物・行事などの種類・数

理念の周知について(2)ー総合コース「『関学』学」の履修者数

★ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。	
小項目0.0.1	
★ 小項目0.0.2	様々な取り組みを通して、学生に学部の理念を周知することができた。
小項目0.0.3	学部の将来ビジョンについて答申をまとめることができた。
その他	
↓	
《次年度に向けた方策(1)》伸ばさせるための方策 注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。	
小項目0.0.1	
★ 小項目0.0.2	将来ビジョンの具体化の過程で、在学生にも新しい学部ビジョンを周知していく。
小項目0.0.3	2012年4月に予定される文部科学省への新学科届出に向けて、将来ビジョンの具体化を図る。
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価】(2)改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目0.0.1	
小項目0.0.2	
★小項目0.0.3	将来ビジョンの具体化について学部内の議論がさらに必要である。
その他	

【次年度に向けた方策(2)】改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目0.0.1	
小項目0.0.2	
★小項目0.0.3	事前相談・届出に向けて学部内で議論を継続する。
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★その他 (自由記述)	
----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価専門委員会の評価>

【学外委員】

○学部の理念・目的に関する周知方法については、更なる改善が望まれます。新しい学部ビジョンについては、その内容の具体的な提示が期待されます。

【学内委員】

○改善すべき事項の「学部内の議論がさらに必要である」と記述されていますが、差し障りのない程度で、具体的にどの点について議論が必要なのか、記述することが期待されます。

○「様々な取り組みを通して、学生に学部の理念を周知することができた。」とのことですが、学生への浸透度を測る取組はなされているでしょうか。

○理念・目的は学科ごとにも設定され、またその周知についても努力されています。なお、大学基準協会の留意すべき事項にもあるように、周知・公表はホームページを欠かすことが出来ません。すでに掲出されていると思いますが、この点についての説明が必要でしょう。○昨年度、改善方策で示された教員懇談会の記述がありません。実施できなくてもいいので、その記述が必要です。これによりPDCAサイクルが機能しているか確認できます。

【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

○小項目0.0.1

基盤評価：「学部、学科または課程ごとに、大学院は研究科または専攻ごとに、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を学則またはこれに準ずる規則等に定めていること」「高等教育機関として大学が追求すべき目的を踏まえて、当該大学、学部・研究科の理念・目的を設定していること」

達成度評価：「建学の精神、目指すべき方向性や達成すべき成果等を明らかにし、当該大学、学部・研究科の理念・目的として適切である」

○小項目0.0.2

基盤評価：「公的な刊行物、ホームページ等によって、教職員・学生、受験生を含む社会一般に対して、当該大学・学部・研究科の理念・目的を周知・公表していること」

達成度評価：「理念・目的の周知・公表に関する各種方策（周知・公表の有効性や方法の適切性等の定期的な検証・改善など）をとり、当該大学に対する理解向上につながっている」

○小項目0.0.3

基盤評価：なし

達成度評価：「検証を実施する体制を整備し、責任を明確にするなどしたうえで、理念・目的の適切性について、恒常的かつ適切に検証を行っている」

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

《現状の説明》0.0.2の（説明）部分に下記のように追記。

教育学部ホームページには、教育目標とともに、理念・目的も掲出している。

《現状の説明》0.0.3の（説明）部分に下記のように追記。

★ 昨年のような教員懇談会は開催しなかったが、将来ビジョン委員会及びそのWGのなかで、将来ビジョンについて議論を行い、最終的には教授会での審議事項とした。

改善すべき事項0.0.3に下記のように追記。

2012年4月に予定される文部科学省への届出申請の準備が急務であり、そのための議論を学部内で継続していく。